

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2023年
3月19日
第147号



コブシ（モクレン科）

薬木区西の温室の並びに、コブシの白い花が咲き初めました。日本原産で、学名の *Magnolia kobus* の種小名は、和名から名付けられています。花が美しく、樹形が整っていることから、庭や公園、街路樹として広く植栽されています。日本ではコブシの漢名として「辛夷」を当てていますが、中国語の「辛夷」が植物を指すときは、紫色の花が咲くモクレンです。

2021年2月8日第110号でハクモクレンを紹介した際にコブシの事も記載しましたが、日本薬局方では、生薬シンイ（辛夷）の基原植物の1つとしてコブシが規定されています。一方、中国での生薬の辛夷の原料としては、コブシは使用されません。民間ではコブシの花をシロップ漬けにして、また天ぷらにして食したり、種子を果実酒の原料として利用したりします。アイヌ民族では、樹皮や枝を煎じてかぜ薬として使用していたそうです。

アメリカザイフリボク

（バラ科）

植物英名のジューンベリーのような有名でしょうか。蕾が熟してきており、そろそろ開花しそうです。北アメリカ大陸の大西洋沿岸を原産とし、欧米では庭木や街路樹としてよく栽培されています。春に白い花が開花、英名のとおり6月ごろに赤色の果実が実り、秋に紅葉するなど、四季を通じて楽しむことが出来ます。熟して深紅色となった果実を生食したり、果実を煮詰めてジャムの材料として利用します。また、欧米では、民間薬として根皮を強壮薬や流産の予防に使用していました。

植物名の由来となった近縁種であるザイフリボクは、日本原産で、こちらも庭木や街路樹として利用されますが、果実が熟するのは秋になります。名前の由来は、花序の形が武士が戦陣を指揮するときに振るう采配の形状に似ていて、采（さい）を振るところからだそうです。